

第75回卒業証書授与式

3月10日(木)、無事卒業式を行うことができました。212名の卒業生が東中を巣立ち、「この日を迎えることができ、本当によかった。」そう想いました。3年前の春、卒業生が入学した時、今のような状況を想像することすらできませんでした。悩むことも多い学校生活でしたが、それ以上に困難をのり越え、関わる人と喜びをわかちあい、たくましく成長した中学校生活でした。担任の先生方の呼名に応える大きな返事、卒業証書をもらう態度も大変立派で、祝いの門出にふさわしい素晴らしい卒業式でした。

合唱のない卒業生からの「別れの言葉」でした。でも、代表生徒の3年間をふり返り、未来を創造するあたたかく力強い言葉に、212名全員の「想い」が重なり、「手紙～拝啓十五の君へ」の合唱が聞こえたような気がしました。代表生徒の言葉は1人の言葉ではなく、卒業生の真剣なまなざしから、212名全員の言葉であることがわかりました。分散登校、分割授業でさえ、仲間を思いやることのできた、令和3年度の卒業生らしい姿でした。

この日を迎えてみると、活動に制限があった分、いやそれ以上に言葉の力を感じた1年であったようにも思います。2日間の東輝祭を無事やりきろうとした時の、「最後はあの子たちに任せます」と言った生徒を信頼した言葉。11月に実施することのできた中身の充実した修学旅行での、「時間をつくり出そう」と言った3年生の先生と生徒の合い言葉。日常生活、諸行事等で、「本来の東中を知っているのは私達だけだ」と卒業生がいつも口にした東中を愛する言葉。気がつけば、卒業式の会場には、参加はできないものの、心を込めて準備をしてくれた1,2年生からの卒業生に向けたあたたかい「言葉」が掲示されていました。

「先生方を褒めに行きたい。」保護者の皆さんに学校に来ていただく機会が少なくなるなかで、我々職員にこんな言葉をかけてくださることがありました。こういった言葉にどれだけ支えられたかわかりません。直接顔を合わせる機会は少なくなっている現在ですが、子供たちを中心に、本校や卒業生に関わる人が互いに結びついていることを再確認した卒業式でもありました。

「夢きよく道はるか」令和3年度卒業生が、明るい未来を切り拓いていくことを期待しています。



春は別れと出逢いの季節です

春になると学校には、卒業や入学、学級の解散やスタート、そして先生方の人事異動等、たくさんの別れと出逢いがあります。予定していたこともあるのですが、予想しない別れが訪れることもあります。その瞬間を迎えると、「もっとやっておけばよかった。」と後悔することが多いのですが、そこでの後悔が次へのエネルギーにもなるような気がしています。また、だからこそ後悔しないように、いつもその瞬間、瞬間を大切にしようころがけています。

3学期末には、お別れを大切にできる機会がたくさんあります。コロナ禍で制限こそありますが、生徒たちは様々な工夫をし、精一杯その機会に取り組んでくれました。超大作の映像となった3年生に贈る会は、3年生に感謝の気持ちを伝えると同時に、2年生のリーダーとしての自覚、1、2年生のまとまりを表現してくれました。感謝しています。



令和3年度をふり返って

3月14日(月)、この日から通常登校になりました。朝読書の時間に教室の様子を見に行くと、1年2組の教室の入り口にいた担任の小林先生が、「やっぱり、全員そろとうれしいですね。」とつぶやきました。感染症対応、分散登校、分割授業等を繰り返す中で、3学期の時間の流れは非常にはやく、気がつけば修了式をむかえようとしています。今年度は感染症の状況も落ち着き、昨年度できなかったことを例年と同じようなかたちで実施できると思っていました。しかし、実際には大きな波が何度も来て、延期や中止をしなければならなかったこともありました。実施することができたことも、感染レベル等を確認し、「本当にできるのだろうか。」自問自答しながらやり方を何度も変更して、取り組み続けました。

今年度を終えようとしている今、ふり返って想うことは、一つひとつの行事が終わり、あたり前の日常生活があたり前に続くたびに、ほっとするとともに、やり遂げられた喜びをたくさん感じることでできた1年でした。長野への修学旅行に行くことができた時、林間学校に行くことができた時、2日間の東輝祭を実施することができた時、部活動で大会に参加することができた時、オンラインでつながった時、教室にクラス全員がそろった時等、その時



その場所で感じた喜びは、安堵感も含め、いつもとは違う喜びでした。

こんな状況だからこそ、進歩したところもあります。固定概念に縛られない取組や行事の創造の仕方、ICT機器の活用法は、大きな財産です。また、そういった活動ができたのも、保護者の皆様のご理解があったからだ感謝しています。来年度も今年度の経験を生かし、東中は前に進んでいきます。